

第十四回与謝野町蕪村顕彰全国俳句大会

与謝野町合併二十周年記念部門

「与謝野をうたう」入賞・入選作品

選者 南うみを

与謝野町俳句大賞

銀漢や機を織る音天に地に

岡山県岡山市 小松原翠

【南】「銀漢」は天の川のこと、七夕の織姫と彦星の物語を伝えている。「機を織る音」は織姫の機を織る音と共に、丹後ちりめんで栄える加悦の機を織る音もある。その音が「天と地に」響き合うのである。

堺市長賞

与謝野びと

時雨を雨と見なさざり

兵庫県加古川市 米谷勝子

【南】「与謝野の人は時雨は雨と言わない」が句意である。「降りみ降らずみ」のような京の時雨ではなく、与謝野には荒々しい「うらにし」が、冬の到来を知らせる。これこそが与謝野の冬の雨だと豪語するのである。

与謝野町観光協会会長賞

夏河は

この辺りかと靴を脱ぐ

岡山県鏡野町 西村 泉

【南】「夏河」は蕪村の「夏河を越すうれしさよ手に草履」の河である。作者は蕪村が渡つたらしい河に来て、「この辺りか」と定め、靴を脱いだ。草履ならぬ靴を手に河を渡り、しばし蕪村に想いを馳せるのである。

南うみを賞

加悦谷の道いつぱいに

祭来る

兵庫県神戸市 平尾美智男

【南】丹後ちりめんで栄えた加悦谷である。今も豪勢な祭が繰り広げられる。「道いつぱいに」に祭衆の賑やかな様子が、また「祭来る」にその勢いが伝わってくる。加悦谷全体が祭に沸くのである。

賞候補

与謝の春子供歌舞伎の見得きりり

京都府長岡京市

南部小花

加悦谷の早苗ぐんぐん風強し

京都府与謝野町

木村緒李

帰省子を迎へ機音弾みをり

京都府与謝野町

糸井範子

棚田植う逆さの大江山を踏み

京都府与謝野町

天野逸風子

あきつ飛ぶ与謝野の里の高塚に

愛知県東郷町

下保木淳子

しぐるるは鬼の涙ぞ大江山

東京都国分寺市

守屋明俊

かなかなや紋紙にある母の声

京都府舞鶴市

坂井恭子

ちりめんの町の片かげ着尺ほど

東京都品川区

本多遊子

ぞうり手に蕪村渡りし川に鮎

大阪府吹田市

一條文子

江山や丹波太郎の湧き起くる

京都府舞鶴市

谷田明日香

佳作

千年の椿虚空に鳴り出しぬ 東京都世田谷区 野上 卓

春を待つ加悦は詩歌の古き町 愛知県愛西市 小川 弘

ちぎり絵のやうな雪降る与謝野かな 京都府京都市 林游実子

向日葵の暮ゆく渦や箇の音 大阪府大阪市 亀澤邦男

街道の家並みすり抜け夏燕 東京都練馬区 小林文隆

穂田や機音止めば泣く赤子 大阪府茨木市 長尾由美子

訪へば江山文庫秋の声 大阪府大阪市 狩野のり子

驟雨いま天の橋立半ばなる 大阪府羽曳野市 土井常寛

鬼親し丹後親しや松落葉 滋賀県高島市 貫野 浩

大江嶺を仰ぐ墳丘蟬時雨 京都府与謝野町 大江清子

枯草にうもれ蕪村の母の墓碑 京都府綾部市 竿山康枝

機音は子守歌なりさくらんば 京都府与謝野町 坂根幸子

縮緬に賑はひし町あいの風 千葉県八千代市 河野正一

星飛んで縮緬織る手深む皺 大阪府茨木市 小林千晶

雨樋の映ゆる尾藤家秋日和 愛知県東海市 夏目惇子

大江嶺の風に育ちし秋桜 京都府与謝野町 藤原八千代

ちりめんの感触母のたなごころ 三重県四日市 矢田敦子

秋光のこぎり屋根やシボを織る 愛知県名古屋市 尾崎登代